

## 【中世山陽道】

鎌倉時代には、計画的な国家整備道路の山陽道の機能見直しが行われ全体としては次第に瀬戸内海の海岸沿いの経路が志向されるようになった。特に、備中、備後の例が最も大きな路線変更ではないかと思われる。

備後では、福山市北部(府中～駅家付近)と安芸の三原北西部(高坂・本郷)の経路から、苜田川に沿って尾道方面を経由する変更が行われている。

そして、駅家に代るものとして、宿駅と呼ばれる交通の要地において、宿泊のための設備や輸送に携わる人馬を有した集落が発達した。これらは江戸時代にかけての宿場町として発展したものが多く、

## 【近世山陽道と西国街道】

西国街道とは、江戸時代における街道の一つであり、近世山陽道の別名である。また幕府は、江戸を中心とした五街道に重点を置く街道整備政策を行ったが、その延長線上に山陽道は脇街道に位置付けられることとなった。この山陽道を当時は西国街道(または西国往還道)と呼ぶこともあり、道幅二間半(約4.5m)と定められ整備された。寛永10年(1635)参勤交代制の確立のためにも重要な街道であった。

街道には宿場が指定され、人馬の継立てを行つた屋敷や、諸大名の宿舎として本陣、脇本陣、そして武士や一般庶民などの宿舎であった旅籠などが整備された。

●一〇メロ 宿場一覧 ;大阪～下関(1～50)

1.山崎(大山崎町・島本町) 2.芥川(高槻市) ……

25.尾道(尾道市) 26.三原(三原市) 27.本郷(三原市本郷町)

28.四日市(東広島市) …… 50.長府(下関市)

江戸時代・1719年(享保)  
本郷駅の町屋と本陣  
配置図



## 【古代山陽道】

古代の山陽道は、奈良・大和朝廷と九州の大宰府を結ぶ幹線道路として最も重要視され、畿内を基点に放射状に伸びる七道駅路(大路、中路、小路)のなかで唯一の大路であった。

●備考-1 古代山陽道の整備

中央集権の実をあげるためには、中央・政庁の整備と共に、中央と地方の国府を結ぶ道路網(官道)の整備が図られなければならなかった。

道幅は約6mから9mで、その行程は直線的に短絡するよう計画されており、各国の国府を効率良く結んでいた。山陽道が重視されたのは、外交使節の人京路でもあったので駅家は瓦葺きで白壁にしていた。

●備考-2 駅家(うまや)の設置

古代山陽道は、原則30里(当時の一里は約540mで、30里は約16km)ごとに駅家(うまや)を設けていた。

当時の、大宝元年(701年)の大宝律令で各駅家には常時馬20疋(ひき)の備えが義務付けられていた。

●一〇メロ 沼田七郷内の駅家

『倭名類聚抄』に「沼田七郷」として、今有・沼田・松木・安直・真良・梨葉・都宇と記されている。

その内の、三つの郷に駅家が設けられていた。

- 真良(しんら) 三原市高坂真良
- 梨葉(なしわ) 三原市本郷町北方
- 都宇(つう) 竹原市新庄

●一〇メロ 沼田本郷の由来

6世紀末から7世紀にかけての沼田川下流における古代文化の発展は、広島県内の他地域には見られない特色あるものであった。

本郷町内には巨石古墳(国重文)や県内最古の横見廃寺(国重文)など多々有り「沼田文化発祥の地」ともいわれている。

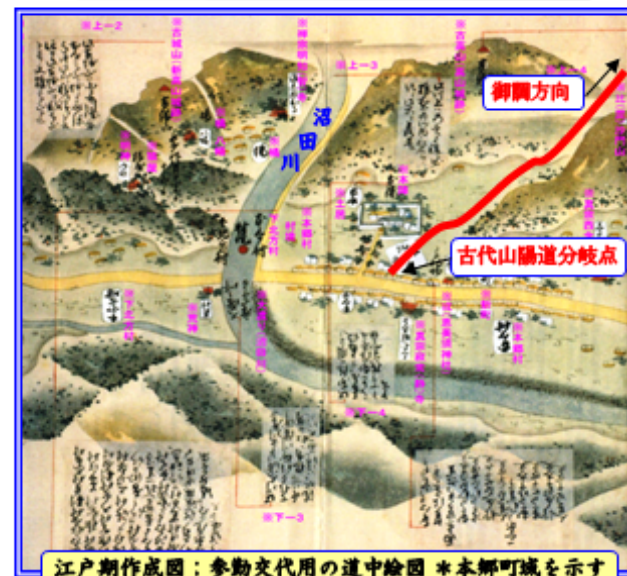
この地を、「沼田七郷」の郡家の中心所在地として「郷」を「沼田本郷」と呼ぶ由縁となった。

●印=国府所在地を示す  
●印=沼田七郷内の駅家を示す



## 古代山陽道の変遷

# 山陽道と西国街道



江戸期作成図；参勤交代用の道中絵図 \*本郷町域を示す

古代山陽道は、奈良・大和朝廷と九州・大宰府迄の各国の国府を効率良く結ぶ大路として重んじられた。大路は、江戸期に西国街道として再整備され、参勤交代路として賑わった。

現在では、街道を外れたバイパス道路の敷設や高速道路設置等で街道の面影が薄らいている。

最近、本郷町域の古道に関わる資料の問合せが多くある。基本的には西国街道と同一路の古代山陽道が本郷町内で大きく北東に分岐していることなどを綴ってみた。

【参考文献一覧】

- ① 郷土史家 正兼 鐵夫 氏  
研究資料「萩藩工程記から学ぶ」
- ② 沼田文化研究会発行；沼田本郷文化選
- ③ 本郷町史 他インターネット資料抜粋  
三原市 本郷町観光協会  
平成30年3月発行



ガイド案内連絡先

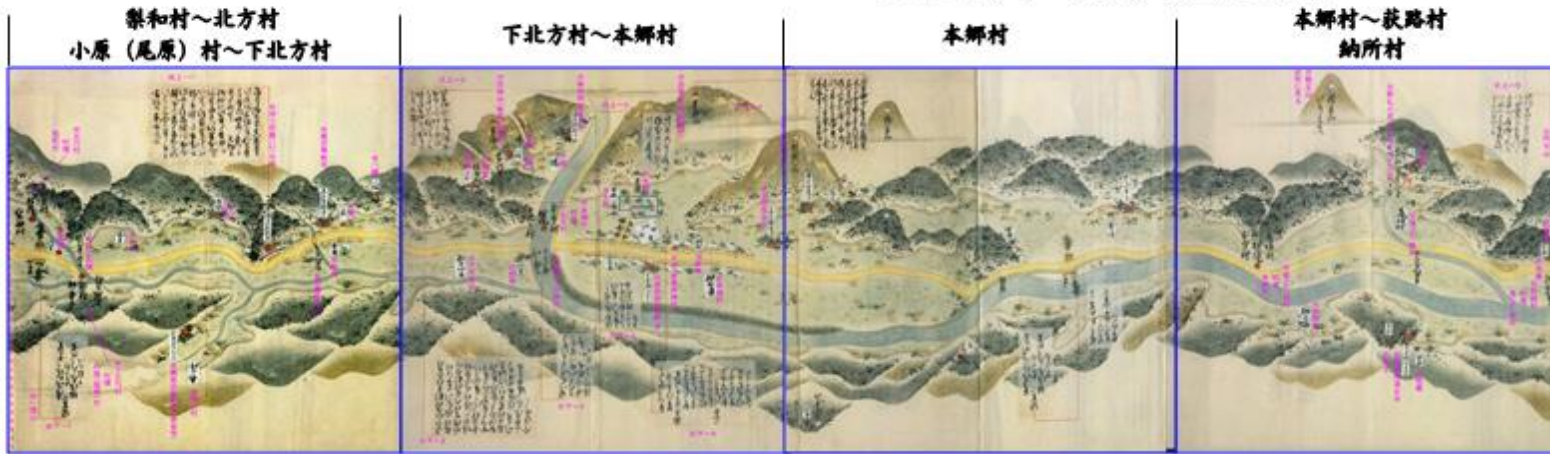
三原市本郷南5丁目26-11

TEL 0848-86-5717

9時～12時・平日

# 安芸国・梨和村～備後国・木原村 西国街道行程絵図

上段  
下段



\*備考

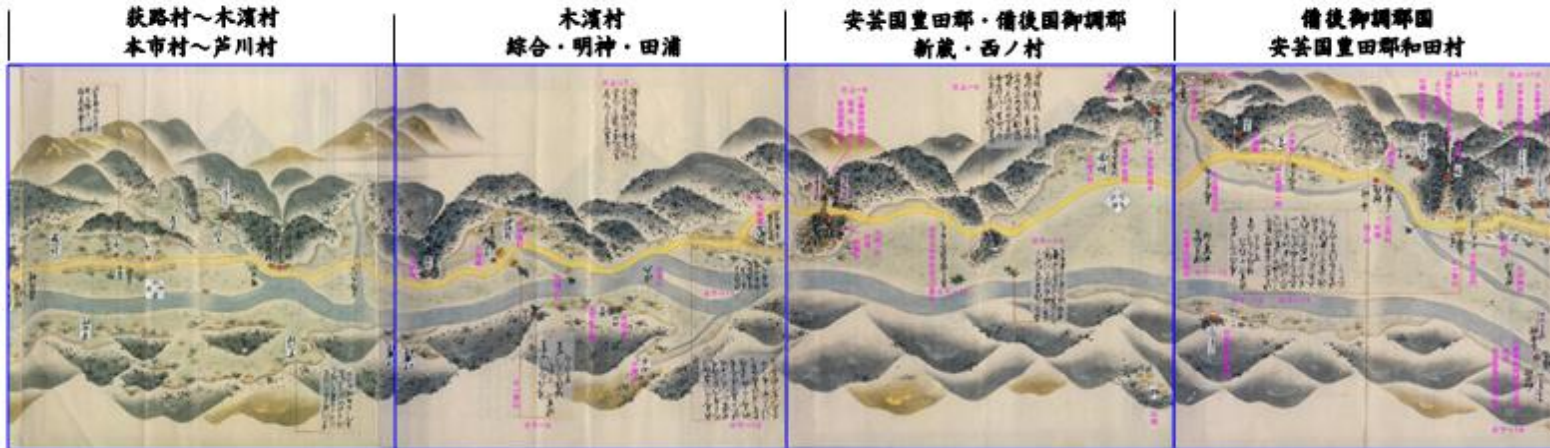
☆一里塚  
一里塚(いちりつか)は、旅行者の目印として、大路(街道)の側に1里毎に設置した塚・土盛りして榎などの木を植えたり石柱を立てたつた標識である。  
一里塚が全国的に整備されるようになったのは江戸時代であった。幕府は日本橋を基点にして順次整備を進めた。  
目印の一里塚(植木や石柱を使用)

一里塚間の距離

← 3.927キロメートル →



上段  
下段

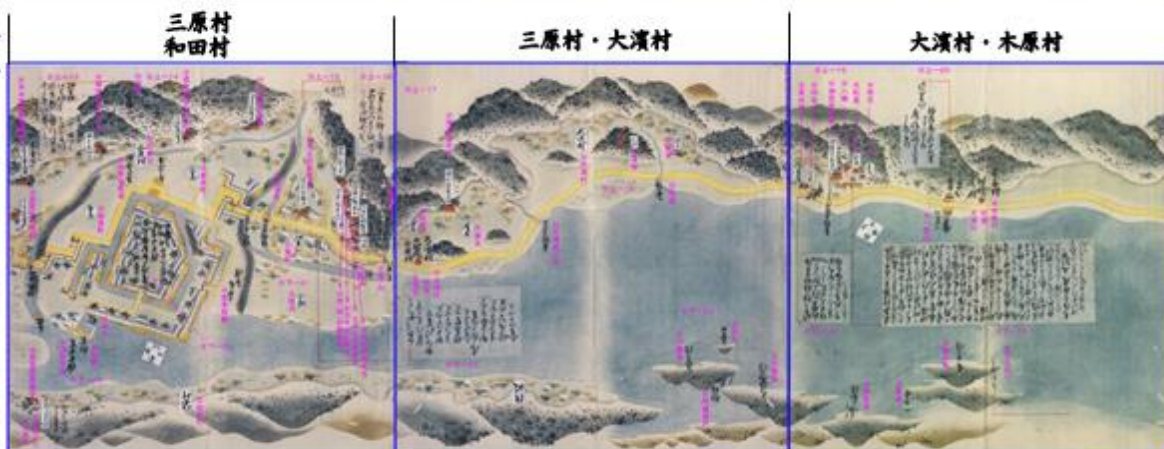


\*備考

☆国府の里・府中(備後)  
古代山陽道発掘現場



上段  
下段



## 沼田本郷域を通る古代山陽道と西国街道

